

よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャパテル代表取締役CEO 佐々木宏至

今回は次世代入退管理とNFCについて紹介する

日本はいつもも先行して自滅?

Felicalは驚くほど普及しているのですが、私などは世界中で使われていると思っていた。しかし、実際はほとんどが日本だけでしか利用されていない。過去に香港とシンガポールで採用歴がある、ISO/IEC 14443 TYPE Cとして提案されたが採用されなかった。その後、FeliCaと上位互換性のある方式がISO/IEC 18092(Near Field Communication, NFC)として規格化された。

国内では、JICSAP ICカード仕様V2.0「第4部 高速処理用ICカード」や、日本鉄道サイバネティクス協会でのICカード規定として規格化されている。携帯電話でFeliCaが採用され、決済などに利用されていた。入退のカードリーダーのカードとしても大変普及している。

IDm偽装

無線部分の仕様は公開されており、カード固有番号のIDmは偽装することが可能であるため、IDmだけを使って認証

することは危険である。一部のFelicaチップを搭載したデバイスにおけるカード・エミュレーション・モードでは、ソフトウェアから自由にIDmを指定することが可能である。

現実問題としてほとんどの入退で使用されているカードリーダーはIDmを読み取っているだけが現状である。

NFC

非接触ICカードの国際標準規格ISO/IEC 14443に規定されるType-AおよびType-Bの通信技術を、それぞれNFC-A、NFC-B、JIS X 6319-4に基づくFeliCaの通信技術をNFC-Fと称し、NFCフォーラムでは、NFC-A、NFC-B、NFC-Fの3つの通信技術を等価に扱うグローバルな互換性を実現する仕様開発が行われている。

ここまでは、Wikipedia、NFCフォーラムから引用させていただいた。

NFCでできること

リーダー/ライター機能、P2P(端末間通信)、NFC端末間ペアリングが主な機能であり、入退にはリーダー/ライター機能を利用する。従来のIDmのみの脆弱性を克服したセキュアな環境が提供できるようになる。

次世代入退としてNFCは普及するか?

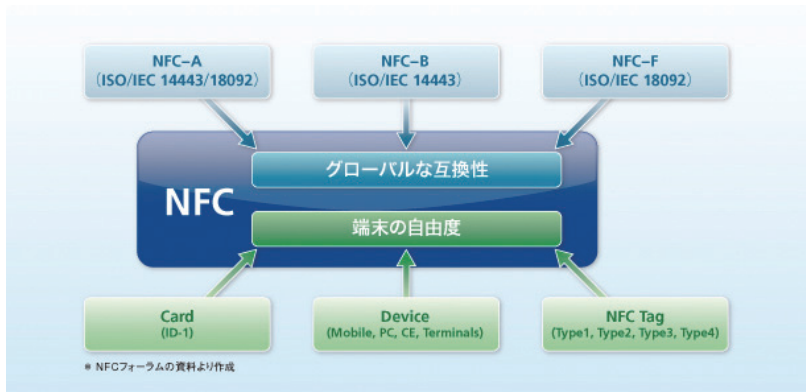
現時点では積極的なベンダが少ないことは事実である。それは種々の課題克服と時期に依存している。課題としては後方互換性がないため、NFCへの移行に大きな投資が必要となる。市場区分としては大学などで早く採用されるかもしれない。中小企業や政府関連は更新に費用をすぐには出さないだろう。キラーアプリケーションがない状態では普及に時間がかかると思われる。

P2Pや端末間ペアリングの利便性と合わせたキラーアプリケーションが必要だと私は考えている。

次世代入退に必要なデバイスと機能性。

銀行のATMにおいて驚くほど設置が増加している、特に指や掌の静脈認証は驚異的と言える。ただし、ATMにおいてはカード認証とセットで機能させているということになる。どの程度の精度で静脈認証をしているかは企業秘密として全く分からない。

安定性と利便性においては優れたデバイスであることは間違いないようだ



が、単独認証にはどうなのか興味のあるところだ。

映像管理との統合

最近では特に珍しい運用形態ではなくなりましたが、日本に限っては普及は限りなくゼロに近い。特に映像管理と併用した場合にはトラッキング能力が重要となる。弊社が取り扱っているGSC(Genetec Security Center)ではタスクベースのデスクトップ表示を自在に駆使しオペレーションのワークフローを極限までカスタマイズできる。また、プランマネージャーといわれる、高度に進化したマッピング機能により、非常にビジュアルでインタラクティブな操作性と視認性を提供している。

番外編 CPSE

2013年11月1日に中国深圳の深圳国際展示会場で開催されていたCPSE2013を視察してきた。数多くの出展社の中で、日本メーカのソニー、パナソニック、シャープ、日立製作所、CBCが出展していたのを発見できた。CPSEは中国最大の展示会だけあり、さすがに巨大な展示会だったが、出展社の大半が深圳企業だったことから、各社の展示内容は正直似たり寄ったりだった。90%がカメラ関係、残りが入退室管理といった割合だった。特徴的なことは、ほとんどのIPネットワークカメラがONVIF対応でNVRもONVIF対応が当たり前のようにになっていることだった。具体的にはONVIF Profile Sが急速に普及しており、音声やモーション検知、入出力は当たり前のように利用することができるようになっていた。最近のNVRの特徴として、スマートフォン対応がPCは不要なほど機能が充実し

ている。映像表示もH.264になったことで帯域消費が抑えられ、録画再生も普通に対応し、音声も同様にサポートされている。また、プッシュ型アラームはスマホにとって重要な機能となっている。これらの機能はIPネットワークカメラ専用ではなく、DVRやHD-SDIでも同様の機能として提供されている。

さらに驚くことは、CMSの機能が強化され1000チャンネルの統合でフリーライセンスが当たり前になっていたことだった。

今後の展望

映像監視システムの二極化が今後はますます顕著になると私は考えている。VMSにおいてはカスタマイズを含めユーザ・ニーズの取り込みが最重要となるだろう。欧米で開発されたワークフローのための高度な機能は大変すばらしいと思う。問題はどこまでローカル・ニーズに応えられるかということだ。

しかし、日本にはそれを使ってくれるユーザがほとんどいないのが現実である。

あくまでもVMSはプラットフォームとして、ユーザ・ニーズを取り込んでいくSDKが優勝劣敗を決定していくのではないかと見ている。それ以外のニーズではワンサイト100カメラ以上がギリギリのVMS選択ラインになるのだろうか。そして、これらのニーズではNVRの熾烈な競争が展開されていくと思う。多店舗展開におけるニーズはコストとセンター統合能力である。

今回はモーション・トラッキング(自動追尾)カメラを中心としたデバイスの紹介にフォーカスする



a&S JAPAN

電子版

定期無料購読のご案内

簡単な手続きで毎号お読みいただけます

- ① <http://www.asj-corp.jp/>にアクセス
- ② このバナーをクリック



- ③ 登録画面の全項目にご記入

送信する

- ④ 「送信する」をクリック



- ⑤ 登録完了メールをお送りします
最新号発行のたびに
アクセスするURLをお送りします



ASJ 合同会社

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-7-1
ウイン神田ビル 10 階 TEL.03-6206-0448